

KANSAI Univ. News

関西大学通信

2010年
10月1日
第385号

The first issue was published on June 19, 1969 and renewed on October 1, 2009.

文部科学省「大学教育・学生支援推進事業 大学教育推進プログラム」に採択

大学院ガバナンス研究科を開設

■Student Support

キャリアセンターを活用しよう!

■「考動」するゼミ・サークル

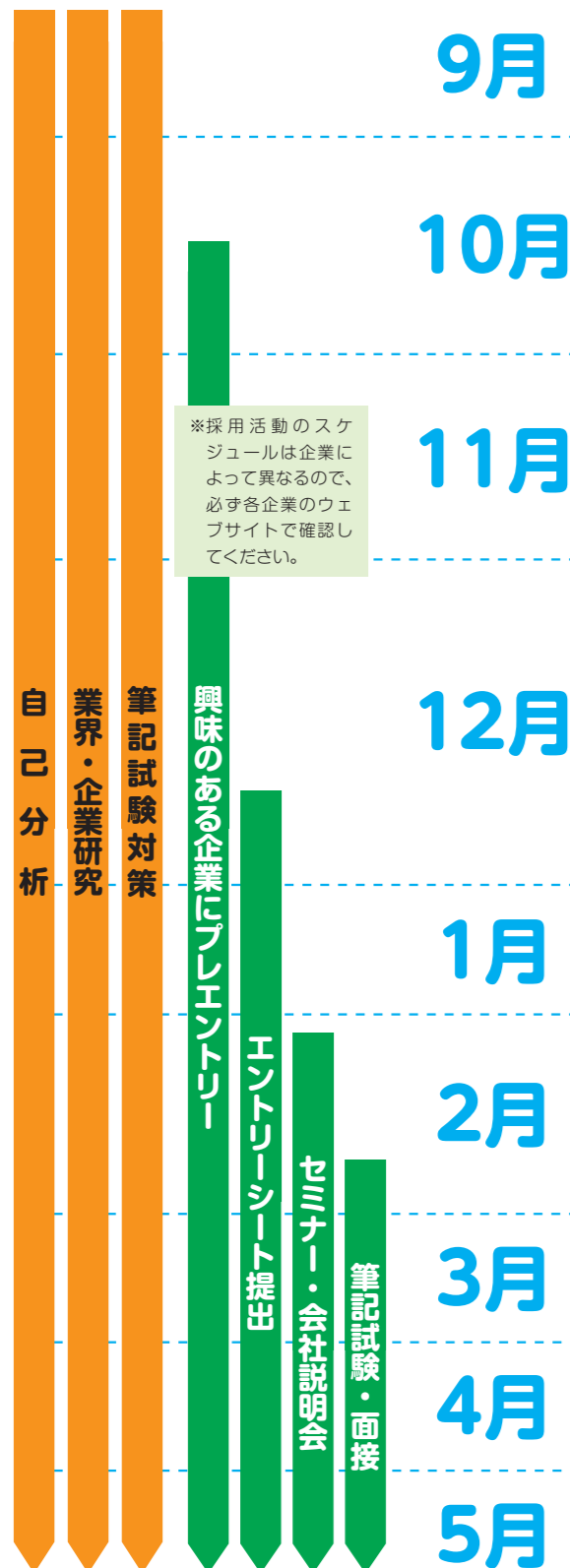
- 政策創造学部 孝忠延夫教授
- 学術研究会 映画研究部



法科大学院と関西大学第一中学校との連携授業の様子
(関連記事4面参照)

3年次生は、これから本格的に就職活動が始まります！下記のスケジュールを参考に今後の活動を計画的に進めていきましょう。また、キャリアセンターでは就職活動に役立つ行事を多数開催します。さらに、就職活動などに関する個別相談も実施していますので、いつでもキャリアセンターへ！

就職活動のスケジュール



キャリアセンター主催行事

第2回就職・進路ガイダンス
秋から本格的に始まる就職活動について、今後の流れや心構えを説明します。

就活対策講座シリーズ

就職活動の基本から、グループディスカッションや面接のポイントまで、分かりやすく解説します。この講座に参加して、就職活動対策を始めましょう。

公務員ガイダンス

公務員志望者に対し筆記試験の傾向と対策や、面接に関する注意点などをアドバイスします。

業界研究会

誰もが知っている有名企業が関大に集結！各業界を代表する企業の講演を聞き、しっかり業界研究をしましょう。

就職模擬試験

選考の中でもシビアな筆記試験！筆記試験を越えなければ面接に行けず、自分自身をアピールできません。今からしっかりとした対策を！

第3回就職・進路ガイダンス

いよいよ目前に迫った選考に向けて、第2回よりも具体的な対策をアドバイス！

エントリーシート対策セミナー

企業へのアピールの第1歩！誰もが苦労するエントリーシートの考え方・書き方をお話しします。参加すればエントリーシートの本質が見えてくる！

就職模擬面接

本番の面接を受ける前に、模擬面接を受けて雰囲気や心構えを学びましょう。

合同企業研究会

ブース形式で、1日に50社以上の企業の採用担当者から直接説明を聞くことができます。効率良く企業に出会えるチャンスです！

※合同企業研究会は、2月以降も、5月・7月・9月・11月と複数回開催していく予定です。ぜひ参加してください！

★ここに挙げたキャリアセンター主催行事はほんの一例です。その他行事や詳細に関しては、KICSS（関西大学インターネットキャリア支援システム）でチェックしましょう！
※KICSSへは、インフォメーションシステムのトップ画面からアクセス可能です。

納得できる進路に決まるまで「考動」しましょう！

「就職環境は厳しいといわれているが実際は？」「どんな準備をしたらいいの？」 就職活動を終えた4年次生にインタビュー！

Q いつ頃から就職活動を始めましたか？

A 3年次の6月から始めました。最初から金融業界一本に絞らず、商社やメーカー、ホテルなど幅広く就職先を考えていました。

Q エントリーした企業はどれくらいありましたか？

A エントリーした企業は、200社近くになります。この段階では、業界を絞らずに幅広くエントリーしました。志望業界を定め、履歴書やエントリーシートを実際に提出した企業は30社です。

Q 就職活動を振り返ってみて、一番苦労したことは何ですか？

A 私は、就職活動が本格的に始まるまでに自己分析が十分ではなく、エントリーシートや面接の場で自分の長所や強みをうまく相手に伝えることができませんでした。将来

を見据えて、今の時点で何を必要とするのかを考えることが大事だと感じています。

Q 自己分析が大事だったということですが、どのように分析を進めていきましたか？

A 私は、今までの自分を振り返るために、「自分史」を作成し、まとめました。その中で、自分がどんなことに興味を持ったのか、どんなことに関心があったのかを分析していきました。

Q 10月から順次、キャリアセンターの行事が始まったと思いますが、キャリアセンターは活用しましたか？

A キャリアセンターの行事をはじめ、自己分析やエントリーシートの分析、面接の際に留意しておくべき点など、キャリアセンターからのアドバイスは就職活動をする上で大変役に立ちました。

自己分析にしても、エントリーシートや面接にしても、自分一人で悩んでいても解決しなかったり気が付かなかったりすることがあるので、親身に相談に応じてもらえるキャリアセンターの存在は非常に頼りになりました。

Q 就職活動を進めていくうえで、大事にしていた点は？

A 志望業界を絞っていく過程で、企業名や知名度だけで選ぶことはしませんでした。キャリアセンター開催の業界研究会でも、最後ま

で残り企業担当者に仕事のことや会社の雰囲気などを質問しました。2月に開催される合同企業研究会でも自分が志望している業界以外の会社に足を運び、業界を絞り込む際の判断材料にしました。情報を鵜呑みにせず、自分で積極的に情報を収集し、考えることが大事だと感じました。

Q これから就職活動を始める人へのアドバイスをお願いします。

A これからの時期は、自己分析をしながら、どんな業界に就職したいのかを考えてみるのが大事です。採用試験では筆記試験が課される企業が大半ですので、SPIといった筆記試験対策も進めていこうにしてください。本当に大事なことは、自分が何に興味があり、どのような将来にしていきたいのかを分析することです。就職活動は厳しく、長期にわたって続くので、気持ちを維持させるためにも、自分一人で悩まないようにしてください。悩むことがあれば、キャリアセンターや友人に相談をしたり、情報を共有するといったことも心がけてください。キャリアセンターの行事は就職活動を進めていく上で参考になりますし、就職活動をしていく中で先輩からのエントリーシートアドバイスなど、具体的に参考になるサポートが多く用意されていますので、積極的に活用してください。



社会学部4年次生
田中敦美さん（金融業界内定）

■キャリアセンターからのメッセージ

自分の意思で「考動」しよう！

今年も就職活動状況は厳しい！？

今年の就職活動も昨年同様、厳しい状況が続くと予想されています。しかし、今年の春学期にキャリアセンターが開催した3年次生対象のガイダンス・講座では、例年よりも参加人数が少なく、中には昨年の半数近くまで参加人数が減少した行事もあり、みなさんの就職活動に対する意識は、昨年よりも低くなっているように感じます。

情報に振り回されていませんか？

現3年次生に話を聞いてみると、「周りの友達も何もしていないから」、「先輩がまだまだ大丈夫って言っていました」などの意見がありました。このように、自分で考えずに他人の意見を鵜呑みにし、周りの流れに身を任せている様子が見受けられます。みなさんも似

たような考え方になっていませんか？自分の考えを持って行動できていますか？

また、「運が悪い」「不景気のせいだ」という意見もありますが、世の中や周りのせいになっているに過ぎません。現4年次生も同じような状況で、諦めずに活動を続け、結果を出しています。つまり、就職活動は、自分自身の問題なのです。

自ら考え、動き出そう！

耳に入ってくる情報や噂に振り回されず、「今何をしなければいけないのか」を自分自身で考えて行動しましょう。体を動かすだけの「行動」ではなく、自ら考えて動くこと、それが「考動」です。「考動する関大人」として、将来の大事な進路選択について真剣に考えて活動しましょう。

その過程で悩んだり、挫折を経験することがあると思いますが、その壁はみなさんが大きく成長できる機会です。希望する進路に進むことができるよう、キャリアセンターは全力でサポートします。一緒に壁を乗り越えていきましょう。

文部科学省平成22年度「大学教育・学生支援推進事業 大学教育推進プログラム」に採択

8月31日、文学部が申請していた「文学士を實質化する〈学びの環境リンク〉—卒論ラボ・スケール・カードの有機的な連携による“気づき”を促す仕組み作り—」が文部科学省平成22年度「大学教育・学生支援推進事業 大学教育推進プログラム」に採択された。

今回のプログラムには、全国の国公私立大学などから298件（うち大学：231件）の申請があり、30件（うち大学23件）が選ばれた。

本取組では、文学部の特性を活かし、卒業論文の作成過程を通して学生が自ら総合力や課題探求力などの学士力を培っていくための、学びの環境作りをめざす。すなわち、1. 文章力を育むアカデミック・ライティングの環境作りをめ

ざし、〈卒論ラボ〉と名づけた学内施設を設置し、啓発行事や講座の開催、レポート・卒業論文の作成指導・支援を行う。2. 学びの達成度を測るために、到達目標や評価基準を策定し、それを〈卒論スケール〉と名づけてweb上に明示化し、学習成果の検証と質保証の環境を整える。3. 何を為すべきかの気づきを促すために、卒業論文作成に必要なデータ・足跡を〈卒論カード〉と名づけたweb環境上のポートフォリオとして提示する。そして〈卒論カード〉には〈卒論ラボ〉と〈卒論スケール〉の情報を統合し、〈学びの環境リンク〉を形成する。これにより、文学士を實質化し、学士力を活かして社会に貢献しうる人材を育成するものである。

経済学部が7専修制に移行

経済学部は2011年度入学生より、4専修からなる専修制を「7専修」からなる新専修制の体系に移行する。2007年度にスタートしたカリキュラム改正では、「経済・社会の複雑化・多様化に起因する、求められる教育・学生のニーズの多用化に対応するため、専修制を導入し、これまで以上に学部の活性化を図る」ことを目的とし、一定の成果をあげた。今回の新専修制でも、専修制発足時の理念を継承しつつ、この4年間に社会で起こった、いっそうの複雑化・多様化・変化の高速化に応えるために発展的な改正を行なった。この改正により、社会の変化と学生のニーズに合致した、より高いレベルでの学習が可能となる。新専修は、「経済理論」、「金融・会計」、「公共経済」、「歴史・社会」、「産業・企業経済」、

「国際経済」および「統計・情報処理」からなり、それぞれの専修ごとに体系的かつ高度な学習を提供する。

1年次には、基礎学力の定着をめざす共通科目を中心とした教育を受けながら、その過程で自分の関心に最も近い「経済学演習（ゼミナール）」を選択する。2年次秋学期から全員がゼミナールに所属するとともに、そのゼミナールを含む専修に分類される。ゼミナールは、卒業までの2年半、継続的に行われ、「卒業論文」という形で4年間の集大成を行う。基礎的教育から卒業論文作成にいたる4年間の段階的教育により、一人ひとりの学生を、学士力の向上、ひいては社会力の向上へと導くことが可能となる。

（経済学部前副学部長 谷田則幸）

ゴメス社「大学サイトランキング」で本学が2年連続第1位

7月29日、ゴメス・コンサルティング株式会社が発表した『大学サイトランキング』で、本学ウェブサイトが2年連続で全国第1位の評価を受けた。

この調査は、全国の国公私立大学が開設している、2010年7月16日までのウェブサイトを対象に「ウェブサイトの使いやすさ」および「情報の公開度・先進性」について、ユーザーの視点で評価・ランキング付けされたもの

で、本学ウェブサイトの総合的な充実度が評価された。

本学はこれからもより使いやすいウェブサイトをめざしていきますので、よろしくお願いたします。



大学院ガバナンス研究科を開設

本学は、大学院ガバナンス研究科の設置届出を文部科学省に行い、8月30日付で受理された。ガバナンス研究科は、本学では初めてとなる政策系大学院研究科である。

その目的は、「高度公共人材」を育成することにある。高度公共人材とは、公的な問題を発見して、その解決策としての政策をデザインし、さらにそれをさまざまな方法で実現していくことができるような人材を指している。

現在では、社会にとって望ましい状態としての「ガバナンス」を、「公」と「民」のパートナーシップを通じて実現していく必要があるとの認識が高まってきている。当研究科が養成しようとする高度公共人材は、今後のガバナンスを担う役割を果たすことが期待される。

同研究科は、1専攻制（ガバナンス専攻）。「ローカル・ガバナンス・モデル」および「グローバル・ガバナンス・モデル」の2つの履修モデルが提示される。2つの履修モデルに含まれる科目をバランスよく履修することで、ローカルとグローバルを横断する視点や研究関心を養うこともできる。

春学期卒業式及び学位（修士・専門職）記授与式・学位（博士）記授与式・秋学期入学式を挙行

9月17日10時から100周年記念会館ホールで春学期卒業式及び学位（修士・専門職）記授与式を、11時30分から同会館第1特別会議室で学位（博士）記授与式を、また14時から秋学期入学式を挙行了した。

春学期学部卒業生は174人、大学院博士課程前期課程修了生は15人、専門職学位課程修了生は24人、博士課程後期課程修了生は7人、論文博士は3人であった。

また、秋学期入学生は、総合情報学部1人、文学研究科博士課程前期課程10人・博士課程後期課程5人、理工学研究科博士課程前期課程4人・博士課程後期課程2人であった。



卒業式及び学位（修士・専門職）記授与式の様子



入学式の様子

中大連携授業で裁判員制度を学習

関西大学第一中学校では、「総合的な学習の時間」を活用して、自ら学び、自らの考える力を育成する取り組みが始まっているほか、大学との連携を深めるために中大連携授業が行われている。

9月7日に法廷教室を利用して行われた模擬裁判は、その一環として行われており、当日は栗原宏武名誉教授の指導のもと、3年生121人が参加した。授業では、強盗致傷を扱う台本を用意。生徒自身が裁判官、検察官、弁護人などの役

割を担い、また傍聴している生徒は裁判員であるという設定で、模擬裁判に臨んだ。大学院生のアドバイスを得た生徒たちは、裁判員制度を実践的に学ぶ貴重な機会を得ることができた様子であった。

検察側の論告求刑を受けて、9月14日には模擬評議・評決が実施され、10月には、今回の授業の成果をより深めるために、大阪地方裁判所で実際の法廷を傍聴する校外授業を予定している。

(関西大学第一中学校)



新役職者一覧 (10月1日付)

◎学長補佐	経済学部教授 本西 泰三	◎政策創造学部	学部学生相談室 教授 川崎 友嗣	同	教授 齊藤 正
◎法学研究所長	法学部教授 佐藤やよひ	学部部長	教授 奥 和義	入試主任	准教授 松本 亮介
◎法学部	学部部長 教授 吉田 栄司	副学部部長	教授 後藤 元伸	学生主任	准教授 北村 敏明
副学部部長	教授 藤原 稔弘	教学主任	教授 小西 秀樹	学部学生相談室	准教授 北村 敏明
同	教授 浦東 久男	同	准教授 河崎 信樹	学部部長	教授 小田 廣和
教学主任	准教授 永田 憲史	入試主任	准教授 橋口 勝利	副学部部長	教授 河井 康人
同	准教授 中野 徹也	学生主任	准教授 三枝憲太郎	同	教授 岡田 芳樹
入試主任	准教授 河村 厚	学部学生相談室	教授 橋本 行史	教学主任	教授 末包 伸吾
学生主任	教授 山名 美加	◎外国語学部	学部部長 教授 竹内 理	同	教授 秋山 孝正
学部学生相談室	教授 森本 哲郎	副学部部長	教授 八島 智子	入試主任	准教授 鶴田 浩章
◎文学部	学部部長 教授 吾妻 重二	同	教授 菊地 敦子	学生主任	教授 西形 達明
副学部部長	教授 三村 尚彦	教学主任	教授 吉田 信介	学部学生相談室	教授 西形 達明
同	教授 大谷 渡	入試主任	教授 山崎 直樹	◎化学生命工学部	学部部長 教授 田村 裕
教学主任	教授 大久保朝憲	学生主任	教授 吉澤 清美	副学部部長	教授 幸塚 広光
同	教授 増田 周子	学部学生相談室	教授 玄 幸子	同	教授 吉田 宗弘
入試主任	教授 多賀 太	◎人間健康学部	准教授 坂 宗	教学主任	教授 大矢 裕一
学生主任	准教授 藤江 康彦	学部部長	教授 竹内 洋	同	准教授 青田 浩幸
学部学生相談室	准教授 門林 岳史	副学部部長	教授 狭間香代子	入試主任	准教授 西本 明生
◎経済学部	学部部長 教授 林 宏昭	教学主任	教授 杉本 厚夫	学生主任	准教授 岩木 宏明
副学部部長	教授 中澤 信彦	入試主任	准教授 岡田 忠克	学部学生相談室	准教授 岩木 宏明
同	教授 橋本 恭之	学生主任	准教授 村川 治彦	◎法学研究科	研究科長 教授 吉田 栄司
教学主任	教授 佐々木保幸	学部学生相談室	准教授 安田 忠典	◎文学研究科	研究科長 教授 吾妻 重二
入試主任	准教授 清水 崇	◎総合情報学部	教授 三浦 敏弘	◎経済学研究科	研究科長 教授 林 宏昭
学生主任	教授 中川 竜一	学部部長	教授 木谷 晋市	◎商学研究科	研究科長 教授 宇恵 勝也
学部学生相談室	准教授 佐藤 雅代	副学部部長	教授 堀 雅洋	◎社会学研究科	研究科長 教授 片桐 新自
◎商学部	教授 竹下 公視	同	教授 加藤 隆	◎総合情報学研究科	研究科長 教授 木谷 晋市
学部部長	教授 宇恵 勝也	教学主任	教授 林 武文	◎理工学研究科	研究科長 教授 前田 裕
副学部部長	教授 乙政 正太	同	准教授 谷本 奈穂	◎外国語教育学研究科	研究科長 教授 竹内 理
同	教授 杉本 貴志	入試主任	教授 名取 良太	◎心理学研究科	研究科長 教授 関口理久子
教学主任	教授 中嶋 道靖	学生主任	教授 森尾 博昭	副研究科長	教授 松村 暢隆
同	准教授 岸谷 和広	学部学生相談室	教授 江澤 義典	◎社会安全研究科	研究科長 教授 河田 恵昭
入試主任	准教授 長谷川 伸	◎社会安全学部	教授 河田 恵昭	◎法務研究科	研究科長 教授 木下 智史
学生主任	准教授 小野 善生	学部部長	教授 土田 昭司	副研究科長	教授 早川 徹
学部学生相談室	教授 荒木 孝治	同	教授 小澤 守	教学主任	教授 鳥越 健治
◎社会学部	教授 片桐 新自	教学主任	教授 亀井 克之	同	教授 竹下 賢
学部部長	教授 舟場 拓司	同	教授 高橋 智幸	入試主任	教授 滝川 敏明
副学部部長	教授 吉岡 至	入試主任	教授 山川 栄樹	学生相談室	准教授 上田 真二
同	教授 齊藤 了文	学生主任	准教授 中村 隆宏	◎会計研究科	研究科長 教授 柴 健次
教学主任	教授 大和 礼子	学部学生相談室	教授 安部 誠治	副研究科長	教授 富田 知嗣
同	助教 脇田 貴文	◎システム理工学部	教授 前田 裕	教学主任	教授 富田 知嗣
入試主任	准教授 村田麻里子	学部部長	教授 田實 裕郎	入試主任	准教授 坂口 順也
学生主任		副学部部長	教授 多川 則男	◎社会連携部	地域連携センター長 経済学部教授 本西 泰三
		同	教授 村林 直樹		

KUカレンダー 10/1-15

日程	イベント・行事名	主対象	問い合わせ先
1日(金)	先端科学技術推進機構 学術フロンティア講演会	学生・教職員・一般	先端科学技術推進機構
2日(土)	第4回三大学医工薬連携科学シンポジウム	学生・教職員・一般	三大学医工薬連携科学教育研究機構 (大阪薬科大学内)
	関西大学ビジネスプラン・コンペティション KUBIC2010 本選会	学生	KUBIC 事務局
	近藤良平客員教授講演会	学生・教職員・一般	堺キャンパス 人間健康学部
	学生支援GPシンポジウム (東京・法政大学)	学生・教職員・一般	学生生活支援グループ
4日(月)	ミュージアム講座「なにわの文化遺産」	一般	社会連携部地域連携センター
6日(水)	関西大学・熊本大学連携講座	一般	社会連携グループ
7日(木)	寄附講座「渋沢栄一記念財団 (日中関係と東アジア)」(毎週木曜日開催)	学生・教職員・一般	G-COE 拠点事務局
8日(金)	先端科学技術推進機構 第31回研究部門別発表会	学生・教職員・一般	先端科学技術推進機構
	商学部 創設記念シンポジウム	学生・教職員・一般	教務センター 経商オフィス
14日(木)	関西大学東京センター 公開講座	一般	東京センター
	寄附講座「渋沢栄一記念財団 (日中関係と東アジア)」(毎週木曜日開催)	学生・教職員・一般	G-COE 拠点事務局

イベント・行事については、予告なく変更される場合があります。また、今後追加・中止となるイベント・行事もあります。詳細・最新情報については、本学ウェブサイトならびに問い合わせ先のウェブサイトなどで必ず確認してください。

考動するゼミ

政策創造学部
 孝忠 延夫 教授 (比較憲法学)

石井 大嗣さん 岸本 美紗さん
 楠田 佳那慧さん 村上 拓希さん
 (政策創造学部3年次生)

テーマは自由、でも研究は実証的に！

Q.ゼミの研究テーマは？

A. あらかじめ決められた研究テーマというものはありません。自分たちの興味、関心のあつたことをテーマとして取りあげ、その分野ごとでグループに分かれて研究しています。私たちのゼミでは、まちづくり、法律、企業研究の3班に分かれて研究しています。

Q.具体的な研究内容を教えてください。

A. まちづくり研究班は、京都景観論争を手がかりに京都景観まちづくりにおける住民と行政、NPOの重要性について、法律研究班は、死刑制度存続論・廃止論、裁判員制度導入による死刑制度への影響について研究しています。また、企業研究班は、東京ディズニーランドの規模と比較した上でひらかたパーク発展の可能性を探り、さまざまな視点から政策発案を行っています。各班は、現地に赴きフィールド調査をするなど直接足を運び、目で見て実感した上で研究を進めるなどの工夫をしています。



ゼミ合宿の様子

の孝忠先生ですが、しっかり学生ののことを見てくれる熱心で優しい先生です。



前列右端が孝忠先生

Q.先生を自慢するとしたら？

A. 学生の目線から真剣に物事を考えてくれる面とともに、ゼミの合宿や飲み会などでは面白くて楽しい一面も見せてくれる、学生想いの先生です。研究を進めるにあたって行き詰まったときにはゼミ時間外でも相談に乗ってくれて、アドバイスをしてくれます。普段は真面目なイメージ

Q.ゼミ合宿や旅行などでの思い出はありますか？

A. ゼミ合宿の思い出は、バーベキューをし、先生と一緒にカラオケをしたことです。普段のゼミとは違った先生の一面を見ることができました。合宿でみんなと楽しく過ごせたことが本当に良かったと思います。

考動するクラブ・サークル

● 映画研究部

「撮る」から「魅せる」へ

Q.主な活動内容について教えてください。

A. 映画研究部では6月と11月の年2回、部員たちが制作した自主映画をKUシンフォニーホールなどで上映しています。部として、監督・役者・スタッフなどの役割を決めて映画製作は行わず、部員の自主性に任せて自由に撮影してもらい、上映会で発表してもらうスタイルです。

院大学映画サークルlimelightさんと合同で上映会をしました。きっかけは悠久の庭で野外上映をするための企画探しでした。解放された外の空間で映画を観るという体験を、新鮮な気持ちで向き合えたため、新しいイベントに繋がりました。実際は当日雨が降ってしまい、やむなくKUシンフォニーホールでイベントを行いました。100人近くのお客さんに足を運んでいただきました。結果は我々映画研究部が勝つことができましたが、映像音響技術は関

部長 小澤 敏之さん (文学部3年次生)



上映会での舞台挨拶

Q.活動内容のうち、映画研究部ならではのユニークな事例を紹介してください。

A. 7月3日に『映画関関戦』と題して関西学

学さんのレベルが高く、合同ワークショップなどを行い、今後も関学さんとの技術や人の交流をしていきたいと考えています。

Q.読者に向けた売りやメッセージをお願いします。

A. 撮影機材に関しては関大で一番充実しています。監督をしてみたいという方、映像の中で役者をしてみたいという方にはとてもいい環境です。部員の半数以上が女性なので、女性の方も気軽に入部できると思います。これから、新しい『映研』を作りあげていくので応援よろしくお願いします。



撮影風景

Q.直近の目標はありますか？

A. 目標は学園祭での来場者数1000人です。映画の質を上げるには多くの人に私たちの作品を観ていただき評価してもらうことが第一だと考えています。